

## 第1章

# 唐津市の根幹となるべき施策

## 【基本目標5】歴史と文化が輝く観光のまちづくり

### 【基本施策1】唐津らしさが輝く交流による観光まちづくり



#### これまでの取り組みや現状

本市の国内宿泊者数は、延べ50万人泊前後で推移しており、平成27年には地方創生事業による宿泊キャンペーン効果や福岡を中心としたプロモーション手法の転換も後押しとなり、市町村合併後、過去最高となる延べ70万人泊超を記録したところです。

しかしながら、平成27年をピークに国内宿泊者数は年々減少が続いており、平成30年(速報値)の国内宿泊者数は延べ50万人泊を下回る状況となっています。

このような背景もあり、新規顧客層とリピーター層の獲得を図るため、平成29年からアニメーションを活用した聖地ツーリズムの推進に取り組み、令和元年には全国ふるさと甲子園において令和初の「行きたいまちNo.1」に輝いたところです。

一方で、訪日外国人宿泊者数は、平成26年を境に飛躍的な増加を見せ、平成30年では、平成26年から4年間で約5.5倍となる延べ4万6千人泊となっている状況です。

このような状況を踏まえ、本市では、観光の経済的恩恵によって唐津に住む人々の生活文化水準の維持及び向上につなげるため、観光を本市の基幹産業へと発展させることを目指す唐津市観光地経営戦略プランを平成31年1月31日に制定し、戦略に基づく各種施策に取り組んでいます。

#### 課題

- 持続可能な観光地経営の実現に向け、本市の観光における現状や課題を正確に把握・分析し、課題解決に向けた新たな施策の立案につなげることが必要となっています。
- 訪日外国人宿泊者数が大幅な伸びを見せているものの、いまだ本市の宿泊者数の約9割は国内旅行者であり、中短期的な視点においては、減少傾向にある国内市場のプロモーション強化やデジタルマーケティングの導入を図ることで宿泊観光客数の回復に向けた地盤固めにも取り組んでいくことが必要となっています。
- 5Gの本格導入など急速なデジタル化に対応するため、情報発信手段の見直し、オンラインによる宿泊予約形態への対応、キャッシュレス等の推進も必要となっています。
- 多様化が進む個人旅行者のニーズへの確にマーケットに適した柔軟な対応を行うことが求められ、これまでの「量」の観光から「質」の観光へシフトするとともに「稼ぐ観光」に特化した事業展開を図っていくことが必要となっています。
- 今後、訪日外国人宿泊者数はさらに伸びていくことが見込まれていますが、国際情勢等の影響や海外旅行ニーズの変化も顕著であり、幅を持たせた中で重点的に取り組む海外市場の設定を行っ

ていくことが必要となっています。

- 「行きたいまちNo.1」から「行ってよかったまちNo.1」へと飛躍するため、ストレスなく快適な旅ができる受入環境の充実を図っていくことが求められます。
- 旅行市場やトレンドが「モノ」消費から、「コト」消費へ移行していることを踏まえて地域資源のみならず文化・生活スタイルなども資源として捉え、魅力ある観光資源として研磨していくことで滞在時間の延長と観光消費の域内循環を高めていくことが必要となっています。

## 単位施策

単位施策	単位施策の概要
1 唐津の魅力を発掘し、ぶれない価値を研磨	<p>従来の観光客数に着眼した「量」の観光から、コアなリピーターにつなげる「質」の観光にシフトするため、観光客視点で観光資源としての価値を見出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 新たな観光資源の開発や文化施設等の観光的活用を推進します。</li> <li>• 市内での滞在時間延長と現地観光消費額の増加につなげていきます。</li> </ul>
2 価値を活かした市場開拓と観光地経営を展開	<p>旅の目的地として唐津を選んでもらうため、旅行志向者が興味を示す、または「唐津へ行きたい」と思わせる明確なテーマ設定のもと、国内外のターゲットに応じた戦略的なプロモーションに取り組んでいきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 聖地ツーリズムなどメディアを活用した事業に取り組み、新たな顧客層の獲得と将来のリピーターへつなげていきます。</li> <li>• 各種データを継続的に収集・分析し、本市のポジショニングを把握するとともに、観光関連事業者が活用しやすい形でデータの提供を図っていきます。</li> </ul>
3 ストレスなく快適な旅ができる受入環境を実現	<p>観光客の満足度向上とリピーター獲得を図るため、快適な滞在環境の実現を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• トイレの洋式化、多言語対応やキャッシュレスの普及・促進などに取り組めます。</li> <li>• ゲートウェイとなる空港や港などを活用した連携事業や集客促進事業に取り組んでいきます。</li> </ul>

## 数値目標

指標名	基準値(H30年度現在)	目標値(R6年度)
市内滞在時間(時間/人)	3	5
日本人宿泊客数(人/年間)	467,500*	500,000
訪日外国人宿泊客数(人/年間)	46,200	50,000
宿泊消費額(万円)	416,075	445,000

※ 速報値のため変更になる場合があります

## 個別計画

- 唐津市観光地経営戦略プラン
- 唐の津風景街道推進ビジョン



キャッシュレスの推進



行きたいまちNo.1

## 〔基本施策2〕文化活動の継承と文化交流の促進



## これまでの取り組みや現状

本市では、市民の文化意識の高揚と文化振興を目的とした市民文化祭は、市民で構成される団体が参加し創り上げる文化の祭典であり、市民の自主的な文化活動の活性化、文化交流の場の創出などの重要な機会となっています。近年の参加団体は、華道・茶道・書道・園芸・絵画・吟詠・謡曲・コーラス・バレエ・太鼓など多岐の分野に渡っています。市民・文化団体と連携、協力体制の構築を図りながら、文化芸術拠点としての施設においては、公益的な文化芸術事業や展示会等を実施し、市民に質の高い芸術文化を鑑賞する機会や歴史的な伝統文化学習の場の提供等に取り組んでいます。

また、各観光文化施設においては建築後かなりの年数を経過しており、建物本体や機械設備の老朽化が著しく、経年劣化に伴う修繕や突発的な工事の件数が年々増加している状況です。唐津市公共施設等総合管理計画や財政事情等を踏まえ将来を見据えた施設環境の整備が今後の重要な課題と思われれます。

少子高齢化の進行により従来の地域コミュニティの崩壊などが危惧されており、市民が積極的に文化活動に参加し、文化の力で楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びを感じることで、一人ひとりが生涯心豊かで健康な人生を送れる充実した社会の構築が求められています。

唐津市民会館は、耐震診断の結果、震度6強で倒壊の危険性があるとの結果が出たことから建て替への検討を開始し、現地で建て替えることに決定しました。また、市民会館解体、建設に伴う振動等の影響が懸念されることから、曳山展示場も併せて整備することに決定しました。

## 課 題

一人ひとりが生涯心豊かで健康な人生を送れる充実した社会の構築のためには、次のような課題があります。

- 文化芸術の鑑賞機会の確保、市民参加型の文化事業企画、伝統文化に親しむ事業企画
- 文化芸術・文化遺産のアーカイブ構築
- 文化交流活動の拠点整備
- 観光文化施設の老朽化に伴う将来を見据えた対策
- 文化事業の企画運営方法の検討
- 文化事業に関する施策を踏まえた市民文化団体との連絡協議の場の拡充
- 高齢化による伝統文化の保存継承、後継者不足の解消

## 単位施策

単位施策	単位施策の概要
1 文化芸術の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民による自主的な文化芸術活動を促進させるため、より効果的な事業展開を図ります。</li> <li>多岐の分野に渡る魅力的な文化芸術イベントや企画展示会の実施を支援します。</li> <li>文化芸術や文化遺産等を保存し、次世代へ継承するアーカイブの構築を図ります。</li> </ul>
2 文化交流活動の拠点整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化交流活動の拠点施設を整備し、それぞれの施設の魅力を向上させます。</li> <li>拠点施設と相互に連携し、集客増大を図ります。</li> </ul>
3 観光文化施設の老朽化対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化が著しい観光文化施設について、地理的要因や施設の利用目的を整理し、類似施設とのすみ分け等を視野に入れた長期的な対応策を検討します。</li> <li>唐津市民会館及び曳山展示場について、協議・検討を重ね、唐津市民会館が市内の文化施設の中核となる施設となるよう取り組みます。</li> </ul>
4 市民文化団体との連携と担い手育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化事業の企画運営を、市民文化団体等と連携して取り組みます。</li> <li>地域文化振興の担い手の育成等を支援します。</li> </ul>

## 数値目標

指標名	基準値 (H30年度現在)	目標値 (R6年度)
観光文化施設利用者数(人)	393,527	403,000
文化芸術活動へ満足している人の割合(%)	76.0	76.0

## 個別計画

- 唐の津風景街道推進ビジョン
- 文化的資源を活用した城内まちづくり計画



伝統芸能ワークショップ



唐津市民会館と曳山展示場

## 〔基本施策3〕スポーツ環境の充実とスポーツ交流の促進



## これまでの取り組みや現状

本市の体育施設数は97施設で、平成30年度利用者数は68万3千人です。また、市民一人あたりの年間利用回数は5.6回となっています。

市では、5つのスポーツ大会を主催しており、その参加者数は数百人から数千人となっています。また、市外大会出場者数(奨励金対象者数)はおおむね横ばいです。

本市の小学生の運動能力は全国並、中学生は全国以下であり、5年前とほぼ同じ水準にあります。

近年、多面にわたり、スポーツの果たす役割の重要性が増している反面、体育施設の中には、経年劣化が進んでいるものがあり、施設や備品等の更新、充実を進めています。

4つのプロスポーツ団体(ソフトバンクホークス、サガン鳥栖、唐津レオブラックス、鳴戸部屋)と総合交流宣言を締結し、スポーツの振興と青少年の健全育成を目的に様々な取り組みを共同して展開しています。

## 課題

- 誰もが身近に楽しめるスポーツ環境の充実や各種スポーツ大会のための良好な環境の整備が課題となっています。
- 直面している少子高齢化社会において、地域づくりの観点からも、生涯スポーツの普及、競技スポーツの強化のほか、スポーツイベントの開催などにおいては、スポーツをする人、観る人に加え、それを支える人など、広く住民の参加をとおして、地域のスポーツ文化を育てていく必要があります。
- 今後、本市の人口は減少していくことが予測されるため、唐津市公共施設再配置計画に基づいた計画的な施設統合など、身の丈に合った施設運営に努める必要があります。
- 地域スポーツ文化の核となる各施設については、ユニバーサルデザイン化や長寿命化に向け、施設や備品等の充実を図る中長期的な整備計画を検討する必要があります。
- 国内、ひいては世界で活躍できる有能なスポーツ選手の育成のためには、スポーツ選手・指導者が仕事と競技・指導活動を両立し、地域で安心して競技に取り組める体制づくりが課題となっています。

## 単位施策

単位施策	単位施策の概要
1 生活に密着した、身近な環境で楽しむ生涯スポーツの拠点づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰もが安全、快適な環境の下で日常的にスポーツに親しみ、スポーツを支える活動に参加できる機会を確保するため、各種スポーツ大会の開催、並びに学校体育施設開放事業、体育施設整備事業等を行います。</li> </ul>
2 スポーツを通じた青少年の健全育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>次代を担う青少年の体力の向上と、豊かな人格の形成に資するため、少年スポーツ大会の開催のほか、県外スポーツ大会出場奨励金の交付等の支援を行います。</li> </ul>
3 各種競技における練習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会佐賀大会の開催に向け、施設改修等各種競技における練習環境を整備します。</li> </ul>
4 スポーツを媒介した交流促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>唐津の豊かな自然環境を活かしたスポーツイベントや合宿誘致等を行います。</li> <li>東京オリンピック事前合宿の受入や地元プロスポーツチームと連携した交流人口の増加を図り、地域スポーツの振興及びスポーツによるまちづくりにつなげます。</li> </ul>

## 数値目標

指標名	基準値 (H30年度現在)	目標値 (R6年度)
スポーツ合宿等誘致(件)	59	60
スポーツ合宿等誘致(泊)	6,172	6,200
体育施設利用者数(人)	682,796	700,000
市民一人あたりの年間利用回数(回)	5.6	5.8



虹の松原小学生駅伝



少年野球

## 第1章

# 唐津市の根幹となるべき施策

## 〔基本目標5〕歴史と文化が輝く観光のまちづくり

### 〔基本施策4〕自然、歴史、文化を活かした景観等の整備



#### これまでの取り組みや現状

住んで楽しい、安心して生活できるまちづくりを進めていくためには、市民に身近な生活環境の向上が必要不可欠です。公園・緑地はその重要な要素であり、そのためにも身近な公園の機能充実などの現状の課題解決とともに、地域の魅力を活かした公園整備など、将来に向けた公園・緑地の整備を進めていくことが必要です。

本市の都市計画公園の整備率は56.5%、計画決定後、未整備区域のある公園が37か所のうち13か所存在し、未整備で残された区域内では、一定の建築制限がかかった状態となっています。

また、本市の優れた資源をつなぐ重要ルートを設定し、複合的な価値を高めるとともに、市民及び来訪者の方に美しい唐津を見てもらい、市民の郷土への誇りや愛着を育てていくことを景観まちづくりのテーマとしています。

本市では、市全域を景観計画区域としていますが、その中でも建築物の建築や開発行為などの行為を届出制とする「重点区域」として指定しているのは、蕨野の棚田地域・城内地区・曳山通りの3地域です。

虹の松原は、特別名勝や玄海国定公園に指定され、日本の白砂青松百選などにも選ばれている日本を代表する文化的遺産であり、本市の重要な観光資源となっています。地域の資源である「虹の松原」の再生に向けて、関係機関と地域住民、市民団体、CSO、ボランティアなどが連携・協働して、再生していくための実践的活動を示した「虹の松原再生・保全実行計画書」のもと、白砂青松の姿を取り戻すべくボランティアグループが行う活動に対する支援を行ってきました。

#### 課題

- 公園に設置している遊具の経年劣化や破損等の事例があり、定期的な修繕メンテナンスが求められています。
- 老朽化や事故防止のために遊具を撤去したことにより、公園の約35%が広場のみの公園となっており、公園のあり方についての検討が必要となっています。
- 都市計画公園のうち、未整備区域については、都市計画決定から既に長期間経過したものがあり、当初決定の目的と現状の必要性を照らした見直しの検討が必要となっています。
- 城内地区・曳山通りは、唐津城築城当時の区割・町割など歴史的たたずまいを感じさせる地域ですが、近年、様々な形態や意匠の建築物の建築等が行われており、良好な景観形成を図るためには、市民協働による取り組みが必要になっています。

## 単位施策

単位施策	単位施策の概要
1 都市緑化の推進及び公園施設の老朽化対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の緑の拠点となる広域的公園や身近な公園が不足する地域への公園整備など、公園緑地の適正配置に努めます。</li> <li>公園緑地の整備にあたっては、ユニバーサルデザインの導入を図ります。</li> <li>既設公園については、施設の老朽化や利用者ニーズの多様化を考慮し、施設の長寿命化による機能更新などを図るとともに整理統合などの再編の検討を行います。</li> <li>公園緑地の維持、管理及び運営について市民が参画できるような体制づくりを検討します。</li> <li>海、山、川及び里地里山などの現存する緑の保全及び育成や市民による宅地内緑化など、みどり豊かな空間形成に努めます。</li> </ul>
2 景観まちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>美しくダイナミックな自然地形を守り、育て、継承するとともに、美しいまちの骨格として保全及び活用しながら、景観まちづくりを進めていきます。</li> <li>多彩な歴史文化を活かした景観まちづくりにより、伝統的な魅力を継承しつつ、人々の暮らしや佇まいに彩りや個性を感じさせる都市空間形成を目指します。</li> <li>「唐津らしい景観」を後世にまで受け継いでいくため、「唐津らしい景観」の共通認識づくりと景観のルールづくりを市民協働により進めていきます。</li> <li>景観形成を重点的に取り組んでいくエリアを「重点区域」として明確化し、唐津らしい景観づくりに向けた取り組みを進めます。</li> <li>虹の松原再生保全活動を継続していくための課題を整理しながら白砂青松の松原を取り戻します。</li> </ul>

## 数値目標

指標名	基準値 (H30年度現在)	目標値 (R6年度)
都市公園施設の長寿命化(公園数)	19	26
市民による修景事業等の実施(件)	4	32

## 個別計画

- 唐津市都市計画マスタープラン
- 唐津市景観計画
- 虹の松原再生保全実行計画



松浦河畔公園



Keep Pine Project



## 第1章

# 唐津市の根幹となるべき施策

## 【基本目標5】歴史と文化が輝く観光のまちづくり

### 【基本施策5】人、物、文化の交流拠点としての港湾の整備



#### これまでの取り組みや現状

本市には、重要港湾である唐津港と、地方港湾である呼子港、星賀港、仮屋港の計4つの港湾があり、古くから九州北部の海の玄関口としての役割を担っています。

唐津港では、平成28年4月に東港地区の耐震強化岸壁が供用開始され、平成30年度に外国クルーズ船が初寄港して以降、クルーズ船の寄港数は増加傾向にあり、港や市街地の賑わい創出が期待されています。平成31年4月には、唐津壱岐間航路に、新造船の「ダイヤモンドいき」が就航し、両市の観光振興、地域活性化への期待が寄せられています。

また、唐津港東港地区は、市民や来訪者が集い賑わう交流空間「みなとオアシスからつ」として、市民による植樹活動や海のカーニバルをはじめとするイベント開催など、市民参加による「みなと」を核としたまちづくりが進められています。平成30年9月には呼子港も「みなとオアシスよぶこ」として登録され、観光地としてのさらなる魅力向上や、全国への情報発信による観光客の増加を目指しています。

呼子港では、港内に点在する離島航路発着所を集約し、離島航路利用者の利便性・安全性の向上を図るとともに、新たな賑わい空間創出による交流人口の増加と地域活性化への期待が高まっています。

#### 課題

- 唐津港のさらなる利用促進を図るため、物流事業者やクルーズ船社等への継続したポートセールスが必要です。また、唐津壱岐間フェリー利用者が減少傾向のため、利用促進施策が求められています。
- クルーズ乗船客の旅客満足度及び地域への経済効果を向上させるため、新たな寄港地観光ツアーの構築や多言語の通訳対応、岸壁等での歓迎イベントなど、受け入れ体制の連携強化が急務となっています。
- 「みなと」を核としたまちづくりを推進するため、「みなとオアシス」を活用した地域住民の交流促進や地域の魅力向上につながる取り組みが求められています。
- 唐津港東港地区の耐震強化岸壁については、国土強靱化の観点からも、航路泊地の水深9m化の早期整備が求められています。また、市民の安全・安心の確保に資するため、施設の老朽化が進行し、機能低下が著しい港湾施設の老朽化対策が求められています。

- 観光施設が多く立地する呼子港周辺は、地理的制約から交通網の脆弱性が大きな課題となっており、特に港内に点在する離島航路発着所周辺は、狭あいなスペースに人と車両が交錯する危険な状況となっており、離島航路利用者の利便性・安全性の確保が課題となっています。また、呼子地域は、週末やイベント時には渋滞が発生しており、来訪者のための交通システムの確立が必要となっています。

## 単位施策

単位施策	単位施策の概要
1 唐津港の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 関係団体との連携により、物流事業者やクルーズ船社等に対し、唐津港への寄港誘致を行い、唐津港の利用促進を図ります。</li> <li>• 壱岐市と連携し、両市の市民や観光客などが双方向に行き来しやすい環境を整備し、フェリー利用者の増加を図ります。</li> </ul>
2 クルーズ船の受入環境改善、体制強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域への経済効果を促す新しい観光コンテンツ(体験メニューなど)を生み出し、船社、旅行会社等への継続したポートセールスを行います。</li> <li>• 関連団体との連携により、クルーズ客等に対する言語対応への取り組みや唐津ならではの文化体験を行い、唐津への再訪を促します。</li> </ul>
3 「みなとオアシス」を中心とした港の賑わいづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「みなとオアシスからつ」「みなとオアシスよぶこ」を中心に、地域住民、来訪者の憩いや交流の場の創出に取り組み、港を核とした地域活性化を目指します。</li> </ul>
4 呼子港先方地区の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 呼子港先方地区の新たな埋立てを進め、離島航路利用者や観光客の駐車場の確保と来訪者のための憩い、賑わい空間を創出します。</li> </ul>

## 数値目標

指標名	基準値(H30年度現在)	目標値(R6年度)
クルーズ船寄港回数(回)	9	20

## 個別計画

- 唐津市都市計画マスタープラン



クルーズ船寄港



唐津港